

エールを送る人々②

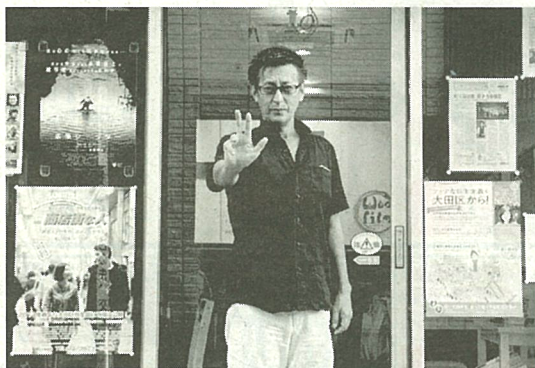
日本全国で増え続ける空き家が問題になっているが、空き家条例が施行される前から商店街の空き店舗をリノベーションして利用している場所がある。東京都大田区東蒲田の「キネマ通り商店街」にあるNPO法人ワップフィルムの拠点「キネマフューチャーセンター」だ。先週紹介したような音楽ライブの他に、映画の上映やオンラインイベントの配信などを行っている。

ワップフィルムは、映画を手段

として地域の再生や人材育成を目的に2011年5月に設立。これまでに、理事長で映画監督の高橋和勸（かずゆき）さん⇨写真⇨を監督に「商店街な人々」「未来シャッター」の2作品を製作、上映してきた。

「NPOが映画を製作するのはワップフィルムが初です。キネマフューチャーセンターがあるキネマ通り商店街は、名前の通り映画の街だったけど、シャッター街になりつつあ

り、その街を再生しようと2本の映画をゼロから作り出しました。とく



に『未来シャッター』は商店街にある銭湯のオーナー、寺の上人、モノレールの駅長、企業や商店の方たちが自分の役を演じています」と高橋監督。

「未来シャッター」のストーリーは、社会になかなか適合できない若者たちが、それぞれに人と関わって成長していく姿を描いたもので、主人公が1人に絞られていない。この映画は、上映を終えたらその場で輪になって対話の時間を設けているのが特徴の1つで、見る人によって共感する登場人物や捉え方が異なるのが興味深い。2015年の作品だが、今もロングランの上映が続けられて人々に影響を与え続けており、

全国の行政や企業、団体、学校なども研修や研究の題材として取り上げている。

「世の中には目に見えない境界線と目に見えない境界線があります。自分自身が作った境界線は、ぜひ越境してほしい」と高橋監督。

そのために必要なキネマフューチャーセンターを活用してほしいという。自身も、この9月に初となるトークショーのオンライン配信を開催している。これも言い方を変えれば、これまでやっていなかったことへの「越境」。

ワップフィルムでは、越境する人、したい人、興味がある人を募集 중이다。

次回は、この映画をきっかけに旅に出発した青年を紹介する。

(松本佳代子)

空き店舗を活用、映画で「シャッター街」再生へ

NPO法人ワップフィルム

URL : <https://wupfilm.jimdofree.com/>

Facebook : <https://www.facebook.com/wupfilm/>